

議案第67号

平成29年度墨田区立小・中学校募集人数について

上記の議案を提出する。

平成28年9月1日

提出者 墨田区教育委員会教育長 加藤 裕之

別紙のとおり決定する。

(提案理由)

墨田区学校選択制度実施要綱第4条の規定に基づき、決定する必要がある。

平成29年度 墨田区立小・中学校
募集人数一覧

小学校名	通学区域内の住民基本台帳児童数9月1日現在	募集人数 (受入可能数)	
		児童数	学級数
緑	91	91	3
外手	81	85	3
二葉	125	募集中止	
錦糸	91	91	3
中和	49	50	2
言問	55	85	3
小梅	62	85	3
柳島	92	92	3
業平	64	85	3
両国	43	85	3
横川	80	85	3
菊川	86	86	3
第三吾孺	59	85	3
第四吾孺	53	85	3
第一寺島	80	85	3
第二寺島	72	85	3
第三寺島	53	53	2
曳舟	78	募集中止	
中川	67	67	2
東吾孺	44	50	2
押上	69	85	3
八広	135	募集中止	
隅田	77	85	3
立花吾孺の森	56	85	3
梅若	64	85	3

中学校名	通学区域内の住民基本台帳生徒数9月1日現在	募集人数 (受入可能数)	
		生徒数	学級数
墨田	159	180	5
本所	178	180	5
両国	175	220	6
竪川	144	144	4
錦糸	166	180	5
吾孺第二	116	140	4
寺島	112	140	4
文花	164	180	5
桜堤	231	231	6
吾孺立花	152	180	5

※募集人数は、各小中学校の学区域内に居住する児童・生徒数、各学校施設の現況等から設定しました。

※通学区域の学校を希望する方は、受入人数にかかわらず全員入学できます。

ただし生活実態のない住所による通学区域の学校への入学はできません。

※通学区域内の入学予定者数が増えた場合は、学級数を増やす場合がありますが、通学区域外からの受入はできません。

議案第69号

第28期墨田区スポーツ推進委員の委嘱（追加）について

上記の議案を提出する。

平成28年9月1日

提出者 墨田区教育委員会教育長 加藤 裕之

別紙の者に委嘱する。

（提案理由）

墨田区スポーツ推進委員選考基準要綱第3条に基づき、スポーツ推進委員を委嘱する必要がある。

第28期墨田区スポーツ推進委員の委嘱（追加）について

1 趣旨

平成28年9月1日付けで、第28期墨田区スポーツ推進委員を委嘱（追加）する。

2 委嘱対象者

國廣 百合人（くにひろ ゆりと）

3 委嘱期間

平成28年9月1日から平成30年3月31日まで

4 根拠

墨田区スポーツ推進委員選考基準要綱第3条1号

「墨田区学習状況調査」の結果について

第 1 平成 28 年度 調査結果の概要

1 本調査結果の位置付け

本調査結果は、墨田区学力向上 3 か年計画（平成 25～27 年度）において、目標の達成状況を検証するものである。

墨田区学力向上 3 か年計画（平成 25～27 年度）

墨田区学力向上 目標

目標 1：「墨田区学習状況調査」における区平均正答率について、全国平均値同等以上を目指す。

※目標 2 は、都の学力調査に関する目標

目標を達成するための具体的な取組及び目標

- 1 墨田区の実態を踏まえた新たな学習状況調査の実施
【目標】D・E 層の児童・生徒数が全体の 40% 以下
- 2 幼保小中の円滑な接続による異校種への適応の促進及び学力向上
【目標】中学 1 年生の、D・E 層が全体の 40% 以下
- 3 読む力・書く力の向上、言語活動の充実を図る取組の研究・実践、取組の普及啓発及び研修の充実
【目標】「読む能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の区平均正答率が全国平均値以上
- 4 考える力の向上を図る取組の研究・実践、取組の普及啓発及び研修の充実
【目標】「思考・判断力」の区平均正答率が全国平均値以上

2 調査の目的

- (1) 墨田区教育委員会は、児童・生徒に確かな学力を身に付けさせ、自ら学び、課題解決できる区民を育成する施策等に資するための基礎データを得る。
- (2) 墨田区立各小・中学校は、授業改善プランを策定し、授業改善の取組を積極的に進めるために、自校の実態や児童・生徒一人ひとりの学習状況を把握する。

3 調査実施日及び調査対象

- (1) 実施日 平成 28 年 4 月 25 日（月）
- (2) 対 象 小学校第 2 学年から中学校第 3 学年までの原則として全児童・生徒

4 受検した児童・生徒数

（単位：名）

	学年	学習到達度調査					意識調査
		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語	
小学校	第 2 学年	1,618		1,617			1,619
	第 3 学年	1,559		1,559			1,563
	第 4 学年	1,609	1,610	1,609	1,606		1,613
	第 5 学年	1,510	1,511	1,512	1,511		1,511
	第 6 学年	1,469	1,469	1,468	1,469		1,474
中学校	第 1 学年	1,297	1,296	1,297	1,296		1,298
	第 2 学年	1,274	1,273	1,274	1,272	1,273	1,273
	第 3 学年	1,316	1,315	1,316	1,318	1,319	1,318

5 調査の基本的な考え方

学習到達度調査では、各教科の設問ごとに【目標値】を定め、児童・生徒の【正答率】がこの【目標値】に対して、－5ポイント以上から＋5ポイント未満の間であった場合、目標値と同程度としている。

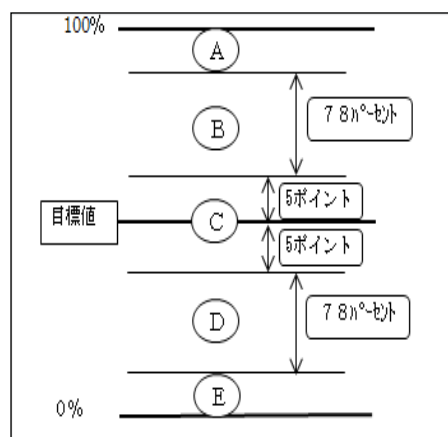
【目標値】 学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の正答率を示したもの。

出題形式や解答形式によって算出され、ブレテストなどによって補正されている。

目標値に対して、「－5ポイント以上＋5ポイント未満」であった場合、目標値と同程度と見なし、C層とする。また、C層より正答率が高い層のうち、直近の78パーセントをB層、さらにその上をA層とする。また、D層、E層についても同様の考えとする。

観点ごとの目標値は、設問ごとに設定された目標値から算出されている。

【平均正答率】 正答率の平均値のこと。観点における学年のデータとして用いる場合は、その観点の全設問における学年集団の正答率の平均値。



第2 平成28年度 調査結果

1 区平均正答率と全国平均正答率・目標値との比較について

(1) 小学校 ※目標値は、標準的な時間をかけて学んだ場合、期待される正答率を示したもの。(単位: %)

教科	観 点	第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
		目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均
国語	国語への 関心・意欲・態度	73.8	77.8 79.8	61.9	61.2 60.5	69.4	73.3 74.6	63.8	66.4 66.6	67.5	70.4 73.9
	話す力・聞く力	75.0	81.9 82.4	63.8	66.0 64.9	72.2	78.2 78.3	69.4	75.6 75.4	71.7	77.9 80.6
	書く力	70.0	72.1 75.0	59.4	57.2 56.3	62.7	64.1 66.7	55.5	55.2 56.1	64.6	65.1 69.3
	読む力	72.5	77.2 76.7	65.7	67.9 66.0	67.5	70.9 69.4	68.2	71.8 70.9	67.5	73.4 75.8
	言語についての 知識・理解・技能	88.9	93.4 94.4	83.2	86.4 85.8	72.2	73.4 73.9	69.6	73.9 75.1	67.2	68.9 71.2
社会	社会的事象への 関心・意欲・態度					44.3	38.6 44.9	51.3	54.2 55.3	59.2	61.1 63.9
	社会的な 思考・判断・表現					46.9	41.3 47.2	51.3	54.2 55.3	59.6	62.1 65.0
	観察・資料活用 の技能					59.0	54.2 59.5	54.8	54.0 53.1	61.3	66.9 69.8
	社会的事象につい ての知識・理解					63.1	57.2 63.5	63.8	64.3 64.0	65.5	63.6 68.2
算数	算数への 関心・意欲・態度	71.1	74.7 74.9	59.0	57.4 56.4	67.5	68.5 67.6	60.8	60.3 59.2	55.0	47.3 51.9
	数学的な考え方	74.5	75.4 76.6	63.0	64.0 62.9	58.1	57.0 59.2	59.4	60.3 61.3	60.6	56.4 60.9
	数量や図形に ついての技能	85.4	87.9 88.7	78.1	79.1 79.2	75.6	76.4 78.0	71.3	69.1 71.8	72.7	68.0 73.1
	数量や図形につい ての知識・理解	84.1	88.2 87.8	66.1	65.9 67.4	77.0	77.9 78.2	65.0	63.7 64.7	70.2	65.4 71.3
理科	自然事象への 関心・意欲・態度					65.0	63.3 62.9	64.4	63.4 66.1	64.2	60.8 65.5
	科学的な 思考・表現					60.3	58.2 59.0	61.1	60.0 64.0	59.2	55.2 60.1
	観察・実験の技能					60.4	59.3 59.9	65.0	66.8 69.7	63.1	58.8 63.6
	自然事象につい ての知識・理解					68.7	68.4 69.7	65.6	65.2 68.5	71.2	68.6 73.3

※ 区平均正答率が、全国平均正答率以上である観点

 区平均正答率が、全国平均正答率よりも低い、全国平均正答率の－5ポイント以上である観点

 区平均正答率が、全国平均正答率の－5ポイント未満である観点

<墨田区学力向上3か年計画における目標の達成状況>

- ・ 区平均正答率が全国平均正答率以上である観点は、全69観点中17観点である。
- ・ 区平均正答率が全国平均正答率よりも低い、全国平均正答率の－5ポイント以上である観点(全国と同程度)は、全69観点中46観点である。
- ・ 区平均正答率が全国平均正答率の－5ポイント未満である観点は、全69観点中6観点である。
- ・ 国語の「読む力」の観点は、第6学年以外の全ての学年において、区平均正答率が全国平均正答率以上である。
- ・ 第4学年社会の全ての観点において、区平均正答率が全国平均正答率の－5ポイント未満である。

(2) 中学校

※目標値は、標準的な時間をかけて学んだ場合、期待される正答率を示したものの。(単位: %)

教科	観 点	第1学年		第2学年		第3学年	
		目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均
国語	国語への 関心・意欲・態度	66.7	70.5 68.3	72.2	77.4 75.5	63.9	64.7 66.1
	話す・聞く能力	70.0	75.7 74.3	70.6	74.1 74.7	68.9	73.3 75.7
	書く能力	59.6	62.2 59.2	70.7	77.5 73.9	58.3	55.7 56.4
	読む能力	54.5	57.0 55.9	61.4	67.0 66.3	58.3	62.3 63.5
	言語についての 知識・理解・技能	66.6	68.3 68.8	71.2	75.7 75.2	65.4	66.9 69.7
社会	社会的事象への 関心・意欲・態度	51.7	46.9 50.9	53.0	49.0 54.5	52.5	47.9 53.0
	社会的な 思考・判断・表現	49.8	46.3 50.8	53.5	49.6 54.3	50.4	47.8 51.2
	資料活用 of 技能	53.9	49.9 53.6	56.1	51.3 56.7	54.4	50.3 54.0
	社会的事象についての 知識・理解	56.4	50.0 55.4	55.7	49.9 56.2	57.0	51.8 57.0
数学	数学への 関心・意欲・態度	67.1	67.1 68.9	58.1	58.0 59.1	46.7	43.5 46.2
	数学的な見方や考え方	65.7	66.2 67.4	55.5	55.0 56.2	49.3	46.5 49.2
	数学的な技能	74.5	73.1 75.0	61.3	61.8 61.5	60.5	60.8 61.2
	数量や図形などに ついての知識・理解	65.4	63.2 65.4	57.3	56.4 58.1	58.2	59.4 59.3
理科	自然事象への 関心・意欲・態度	64.7	63.3 68.9	55.3	42.9 49.1	52.8	45.5 50.6
	科学的な思考・表現	64.9	61.7 68.1	55.0	46.5 51.3	52.2	43.4 49.3
	観察・実験の技能	67.9	65.7 71.5	48.9	29.4 38.9	50.0	36.7 46.6
	自然事象についての 知識・理解	59.4	53.2 59.0	57.9	47.5 54.0	58.6	51.8 58.0
英語	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度			62.0	61.5 63.0	62.7	62.1 64.0
	外国語表現の能力			48.8	44.7 49.6	47.8	42.8 45.5
	外国語理解の能力			65.8	67.8 68.1	65.0	66.0 67.5
	言語や文化についての 知識・理解			66.7	62.3 66.8	60.4	60.5 60.5

※ 区平均正答率が、全国平均正答率以上である観点 区平均正答率が、全国平均正答率よりも低い、全国平均正答率の－5ポイント以上である観点 区平均正答率が、全国平均正答率の－5ポイント未満である観点

<墨田区学力向上3か年計画における目標の達成状況>

- ・ 区平均正答率が全国平均正答率以上である観点は、全59観点中11観点である。
- ・ 区平均正答率が全国平均正答率よりも低い、全国平均正答率の－5ポイント以上である観点(全国と同程度)は、全59観点中31観点である。
- ・ 区平均正答率が全国平均正答率の－5ポイント未満である観点は、全59観点中17観点である。
- ・ 第1・2学年の国語は、5観点中4観点において、区平均正答率が全国平均正答率以上である。
- ・ 理科は第2学年の「科学的な思考・表現」以外の全ての観点について、社会は全ての学年の「社会的事象についての知識・理解」の観点について、区平均正答率が全国平均正答率の－5ポイント未満である。

2 D・E層の児童・生徒の割合の推移について

※D・E層とは、目標値に対して－5ポイント未満の(学力の定着に課題のある)児童・生徒の割合である。

(1) 小学校

(単位：％)

学年	教科	各層に属する児童の割合 (28 年度)					D・E層に属する児童の割合		
		A層	B層	C層	D層	E層	26 年度	27 年度	28 年度
2 年	国語	17.2	40.5	20.5	21.4	0.4	18.4	18.9	21.8
	算数	20.2	33.1	26.2	20.3	0.1	17.2	17.3	20.4
3 年	国語	7.3	43.5	21.5	26.4	1.3	29.9	32.1	27.7
	算数	8.1	43.0	15.4	32.8	0.6	28.3	29.3	33.4
4 年	国語	13.1	39.6	16.5	30.3	0.6	36.8	43.7	30.9
	社会	5.4	31.2	14.8	44.2	4.4	29.3	34.7	48.6
	算数	7.0	45.5	14.8	31.9	0.8	33.8	28.9	32.7
	理科	4.0	43.2	18.1	33.8	0.9	38.4	33.8	34.7
5 年	国語	8.9	43.5	16.4	30.8	0.4	33.9	32.6	31.2
	社会	3.4	40.0	16.9	38.8	0.9	30.0	40.6	39.7
	算数	5.1	41.1	18.8	33.3	1.7	35.8	37.7	35.0
	理科	5.0	37.9	22.8	33.6	0.8	48.4	41.9	34.4
6 年	国語	9.1	44.9	16.3	29.3	0.4	30.8	33.3	29.7
	社会	11.0	37.6	12.5	38.3	0.6	34.9	48.4	38.9
	算数	9.1	32.0	15.6	40.8	2.5	35.5	39.4	43.3
	理科	1.8	38.1	17.8	41.3	1.0	46.0	37.5	42.3

(2) 中学校

(単位：％)

学年	教科	各層に属する生徒の割合 (28 年度)					D・E層に属する生徒の割合		
		A層	B層	C層	D層	E層	26 年度	27 年度	28 年度
1 年	国語	3.3	45.4	21.3	29.4	0.6	28.4	34.7	30.0
	社会	1.0	26.5	17.4	54.2	0.8	39.3	35.9	55.0
	数学	9.8	39.5	12.9	36.1	1.8	41.6	36.9	37.9
	理科	1.4	36.0	16.2	45.3	1.1	48.3	43.4	46.4
2 年	国語	6.1	52.4	15.9	25.0	0.5	30.3	37.3	25.5
	社会	0.8	30.0	18.1	50.2	0.9	54.6	54.7	51.1
	数学	4.9	39.6	15.3	37.8	2.4	37.6	41.9	40.2
	理科	0.6	22.5	15.5	60.0	1.5	48.8	54.0	61.5
	英語	9.7	34.6	12.2	42.3	1.2	36.6	40.7	43.5
3 年	国語	3.6	44.9	20.0	29.9	1.6	29.9	35.1	31.5
	社会	0.6	31.3	17.8	49.3	1.0	55.6	54.4	50.3
	数学	7.1	40.1	10.0	40.0	2.7	40.6	39.8	42.7
	理科	1.8	28.5	12.1	53.9	3.6	56.2	52.9	57.5
	英語	4.6	39.5	15.7	39.6	0.6	36.6	38.6	40.2

※ は、D・E層に属する児童・生徒の割合が40%を超えている教科である。

＜墨田区学力向上３か年計画における目標の達成状況＞

D・E層の児童・生徒が全体の４０％を超えている教科数の推移は、次のとおりである。

(小学校)

平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度
２教科	４教科	３教科

(中学校)

平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度
７教科	７教科	１０教科

墨田区学力向上３か年計画に基づいて学力向上の取組を進めてきたが、D・E層の割合でみると、改善しているとは言い難い状況にある。

また、学年や教科によってD・E層の児童・生徒の割合が大きく異なっている。

3 「読む能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率について

(1) 小学校

(単位：％)

観点	第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国
読む能力	77.2	76.7	67.9	66.0	70.9	69.4	71.8	70.9	73.4	75.8
書く能力	72.1	75.0	57.2	56.3	64.1	66.7	55.2	56.1	65.1	69.3
言語についての知識・理解・技能	93.4	94.4	86.4	85.8	73.4	73.9	73.9	75.1	68.9	71.2

<墨田区学力向上3か年計画における目標の達成状況>

小学校においては、全15観点中、全国平均正答率以上の観点は6観点であり、下回ったのは9観点である。

学年別にみると、第3学年は全ての観点で全国平均正答率を上回っている。平成27年度の第2学年も全ての観点で全国平均正答率を上回っていることから、現在の第3学年は昨年度に引き続き良好な結果である。

観点別に見ると、「読む能力」は第6学年以外は全国平均正答率以上である。平成27年度の第3学年は全国平均正答率を下回っていたが、第4学年になって全国平均正答率を上回るようになった。

「書く能力」及び「言語についての知識・理解・技能」については、第3学年以外、全国平均正答率を下回っている。

(2) 中学校

(単位：％)

観点	第1学年		第2学年		第3学年	
	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国
読む能力	57.0	55.9	67.0	66.3	62.3	63.5
書く能力	62.2	59.2	77.5	73.9	55.7	56.4
言語についての知識・理解・技能	68.3	68.8	75.7	75.2	66.9	69.7

<墨田区学力向上3か年計画における目標の達成状況>

中学校においては、全9観点中、全国平均正答率以上の観点は5観点であり、下回ったのは4観点である。

学年別にみると、第2学年は全ての観点で全国平均正答率を上回っている。平成27年度の第1学年も全ての観点で全国平均正答率を上回っていることから、現在の第2学年は昨年度に引き続き良好な結果である。

第3学年は全ての観点で全国平均正答率を下回っているが、「読む能力」「書く能力」について、その差は小さい。

※ は、区平均正答率が全国平均正答率を上回っている観点である。

4 「思考・判断力」の平均正答率について

(1) 小学校

(単位：％)

教科	第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国
国語	74.7	74.3	52.4	51.7	72.5	71.7	73.8	73.3	66.2	68.0
社会					30.2	38.3	58.9	61.0	66.6	62.3
算数	73.8	73.0	59.9	57.7	54.8	56.7	60.4	61.3	51.6	54.9
理科					48.0	49.1	58.4	63.6	45.6	51.9

<墨田区学力向上3か年計画における目標の達成状況>

小学校においては、全16観点中、全国平均正答率以上の観点は7観点であり、下回ったのは9観点である。

(2) 中学校

(単位：％)

教科	第1学年		第2学年		第3学年	
	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国
国語	62.7	61.0	58.7	58.1	63.3	65.3
社会	35.0	38.7	56.2	59.1	47.9	52.1
数学	69.3	70.1	58.4	58.8	46.3	49.8
理科	59.5	66.3	46.4	49.4	39.9	42.5
英語			60.3	61.1	46.5	48.7

<墨田区学力向上3か年計画における目標の達成状況>

中学校においては、全14観点中、全国平均正答率以上の観点は2観点であり、下回ったのは12観点である。

※ は、区平均正答率が全国平均正答率を上回っている観点である。

5 標準スコアによる同一集団の経年比較

(1) 小学校

※ 平成28年度に、標準スコアが50以上であった観点

教科	標準スコア 観点	第2学年	第3学年		第4学年			第5学年			第6学年		
		2年生の時	2年生の時	3年生の時	2年生の時	3年生の時	4年生の時	3年生の時	4年生の時	5年生の時	4年生の時	5年生の時	6年生の時
		28年度	27年度	28年度	26年度	27年度	28年度	26年度	27年度	28年度	26年度	27年度	28年度
国語	国語への関心・意欲・態度	49.0	50.5	50.3	51.1	49.0	49.4	47.6	49.8	49.9	49.7	49.2	48.4
	話す力・聞く力	49.7	49.8	50.5	50.6	49.5	50.0	49.1	49.6	50.1	51.7	49.9	48.8
	書く力	48.9	50.4	50.3	50.4	48.8	49.2	46.8	49.7	49.7	48.1	48.4	48.4
	読む力	50.2	50.7	50.7	52.8	49.7	50.6	49.8	50.2	50.4	51.0	50.3	48.9
	言語についての知識・理解・技能	49.1	50.5	50.3	50.7	49.5	49.8	48.5	49.8	49.3	46.9	49.2	48.9
社会	社会的事象への関心・意欲・態度						47.6		49.9	49.5	51.2	48.9	48.9
	社会的な思考・判断・表現						47.6		50.0	49.5	51.0	48.8	48.8
	観察・資料活用・技能						47.8		49.8	50.4	50.5	48.6	48.7
	社会的事象についての知識・理解						47.4		49.6	50.2	48.9	47.6	47.8
算数	算数への関心・意欲・態度	49.9	50.4	50.4	50.7	49.0	50.4	49.5	49.9	50.4	49.0	48.1	48.4
	数学的な考え方	49.4	49.9	50.5	50.1	50.0	49.1	50.5	49.8	49.6	48.7	48.7	48.1
	数量や図形についての技能	49.3	50.4	49.9	51.2	49.1	49.1	49.3	49.4	48.7	47.7	48.3	47.7
	数量や図形についての知識・理解	50.3	50.9	49.3	51.4	48.7	49.8	48.8	49.9	49.5	48.8	48.4	47.3
理科	自然事象への関心・意欲・態度						50.2		48.7	48.7	48.5	46.7	47.6
	科学的な思考・表現						49.6		49.2	48.2	49.0	47.2	47.5
	観察・実験の技能						49.7		48.5	48.7	45.2	46.0	47.9
	自然事象についての知識・理解						49.3		48.5	48.2	47.4	45.8	47.6

(平成28年度の標準スコアの状況)

- 全ての教科において、標準スコアが47～51の間にあり、全体的には全国平均正答率よりやや低い傾向にある。
- 第3学年については、国語は全ての観点、算数は2つの観点で標準スコアが50以上である。
- 第6学年について、平成26年度からの経年で比較すると、社会はやや下降傾向である。一方、理科については平成27年度からやや持ち直している。

◇ 「標準スコア」とは、全国平均正答率を50としたときの換算値であり、50を上回れば相対的に良好であることを、下回っていれば課題があることを示している。

経年で結果を比較する場合、毎年調査問題が異なり、全国平均正答率も異なるので、標準スコアで比較する方が変化を客観的に見ることができる。

(2) 中学校

教科	観点 標準スコア	第1学年		第2学年		第3学年		
		小学6年生の時	1年生の時	1年生の時	2年生の時	1年生の時	2年生の時	3年生の時
		[参考]27年度	28年度	27年度	28年度	26年度	27年度	28年度
国語	国語への関心・意欲・態度	49.4	51.0	50.3	50.8	50.5	50.1	49.4
	話す力・聞く能力	49.9	50.7	50.1	49.7	50.9	49.4	49.0
	書く能力	49.4	50.9	50.6	51.2	50.1	50.6	49.8
	読む能力	49.3	50.5	50.7	50.3	51.5	49.0	49.5
	言語についての知識・理解・技能	49.1	49.7	50.4	50.3	49.1	48.7	48.6
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	49.1	47.8	49.5	47.7	50.6	48.3	47.9
	社会的な思考・判断・表現	48.8	47.7	49.6	48.0	50.6	48.3	48.4
	資料活用 of 技能	48.8	48.2	49.5	47.4	49.8	48.6	48.3
	社会的事象についての知識・理解	47.9	47.4	49.8	47.0	50.3	48.0	47.4
数学	数学への関心・意欲・態度	48.8	49.2	49.2	49.6	49.5	47.9	49.1
	数学的な見方や考え方	48.4	49.5	49.4	49.5	48.8	48.0	49.1
	数学的な技能	47.9	49.1	49.4	50.1	48.5	49.2	49.9
	数量や図形などについての知識・理解	47.4	49.0	48.8	49.2	46.7	48.2	50.0
理科	自然事象への関心・意欲・態度	48.4	47.2	47.8	46.9	45.6	47.1	47.9
	科学的な思考・表現	48.0	46.7	47.8	47.6	45.5	47.4	47.5
	観察・実験の技能	48.3	47.4	48.6	46.2	46.6	47.4	46.7
	自然事象についての知識・理解	49.0	47.0	47.2	46.9	45.7	47.8	47.4
英語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度				49.4		50.2	49.1
	外国語表現の能力				48.5		49.0	49.1
	外国語理解の能力				49.8		50.6	49.3
	言語や文化についての知識・理解				48.4		49.0	50.0

(平成28年度の標準スコアの状況)

- ・ 第1・2学年の国語については、それぞれ5観点中4観点において標準スコアが50以上である。
- ・ 第3学年について平成26年度から経年で比較すると、国語や社会は下降傾向であるが、数学や理科においては改善傾向が見られる。数学は、第3学年が第1学年のときには4観点の標準スコア平均が48.4であったが、平成28年度には49.5へと上昇した。同様に理科は、第3学年が第1学年のときには4観点の標準スコア平均が45.8であったが、平成28年度には47.3へと上昇した。
- ・ 全ての学年において、社会は標準スコアが49以下であり、理科は標準スコアが48以下である。

第3 意識調査と学習状況との関連

1 学校での学習に関する児童・生徒の認識と調査結果の不整合

意識調査の質問項目「最近、学校の勉強がむずかしくなったなど、感じることはありますか。」

(単位：％)

		全部 理解している	大変だけど 理解している	分からない ことが出てきた	分からないまま のことが多い	その他
小5	墨田区	30.3	45.8	17.3	5.5	0.4
	全国	22.2	50.4	21.4	5.5	0.4
小6	墨田区	27.9	44.8	19.9	7.0	0.4
	全国	25.3	50.0	19.1	5.2	0.3
中1	墨田区	19.3	58.2	16.3	6.1	0.1
	全国	13.1	48.9	28.6	9.0	0.4
中2	墨田区	11.5	46.3	27.9	14.1	0.2
	全国	7.3	39.9	35.7	16.6	0.4
中3	墨田区	8.7	43.2	29.3	18.5	0.2
	全国	7.6	40.3	35.1	16.4	0.5

		理解している	26年度の差	27年度の差	28年度の差
小5	墨田区	76.1	+ 2.3	+ 1.6	→ + 3.5
	全国	72.6			↓ - 2.6
小6	墨田区	72.7	+ 4.1	- 1.3	→ - 2.6
	全国	75.3			↓ - 2.6
中1	墨田区	77.5	+18.5	+18.8	→ +15.5
	全国	62.0			↓ +15.5
中2	墨田区	57.8	+ 8.8	+ 8.3	→ +10.6
	全国	47.2			↓ +10.6
中3	墨田区	51.9	+ 6.5	+ 4.4	→ + 4.0
	全国	47.9			↓ + 4.0

→ 同じ学年の変化

↓ 同じ集団の変化

「最近、学校の勉強がむずかしくなったなど、感じることはありますか。」という質問に対する、小学校第5学年以上の回答の状況を表したものが、上の表である。

この表から、小学校第6学年以外の全ての学年において、墨田区の児童・生徒は「学校の勉強を理解している」と感じている割合が、全国よりも多いということが分かる。

一方、9・10ページの結果のとおり、学習状況調査の結果では全国平均正答率に達していない教科が多い。ただし、「墨田区と全国」の同一集団の経年変化をみると、「学校の勉強を理解している」と感じている割合の差が徐々に縮まっている。

2 授業に対する児童・生徒の意欲

意識調査の質問項目「学校生活の中で何日くらい、自分の意見を发表或し、先生の質問に答えたりして
いますか。」 (単位：%)

		1 時間 3 回以上	1 時間 最低 1 回	1 日 最低 1 回	発表しない 日もある	その他	1 時間最低 1 回以上
小	墨田区	13.9	29.8	23.2	32.2	0.9	43.7
5	全国	16.2	34.9	22.9	25.5	0.5	51.1
小	墨田区	12.8	26.7	23.7	36.6	0.3	39.5
6	全国	12.7	32.2	25.3	29.5	0.3	44.9
中	墨田区	6.7	25.7	28.3	38.9	0.4	32.4
1	全国	9.1	29.8	27.6	33.1	0.4	38.9
中	墨田区	7.5	26.0	23.6	42.7	0.2	33.5
2	全国	8.2	26.5	27.7	37.3	0.4	34.7
中	墨田区	7.0	25.9	26.6	40.2	0.2	32.9
3	全国	8.6	26.5	27.7	36.8	0.4	35.1

■ 「1 時間最低 1 回以上、自分の意見を发表或し、先生の質問に答えたりしている」と回答した、
墨田区と全国との差の経年比較

	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度
小 5	－ 16.1 ポイント	＋ 0.2 ポイント	－ 7.4 ポイント
小 6	－ 19.8 ポイント	－ 6.8 ポイント	－ 5.4 ポイント
中 1	－ 17.2 ポイント	－ 3.4 ポイント	－ 6.5 ポイント
中 2	－ 22.5 ポイント	＋ 2.3 ポイント	－ 1.2 ポイント
中 3	－ 19.6 ポイント	－ 6.2 ポイント	－ 2.2 ポイント

「学校生活の中で何日くらい、自分の意見を发表或し、先生の質問に答えたりしていますか。」という質問に対する、小学校第 5 学年以上の児童・生徒の割合を表したものが、上の表である。

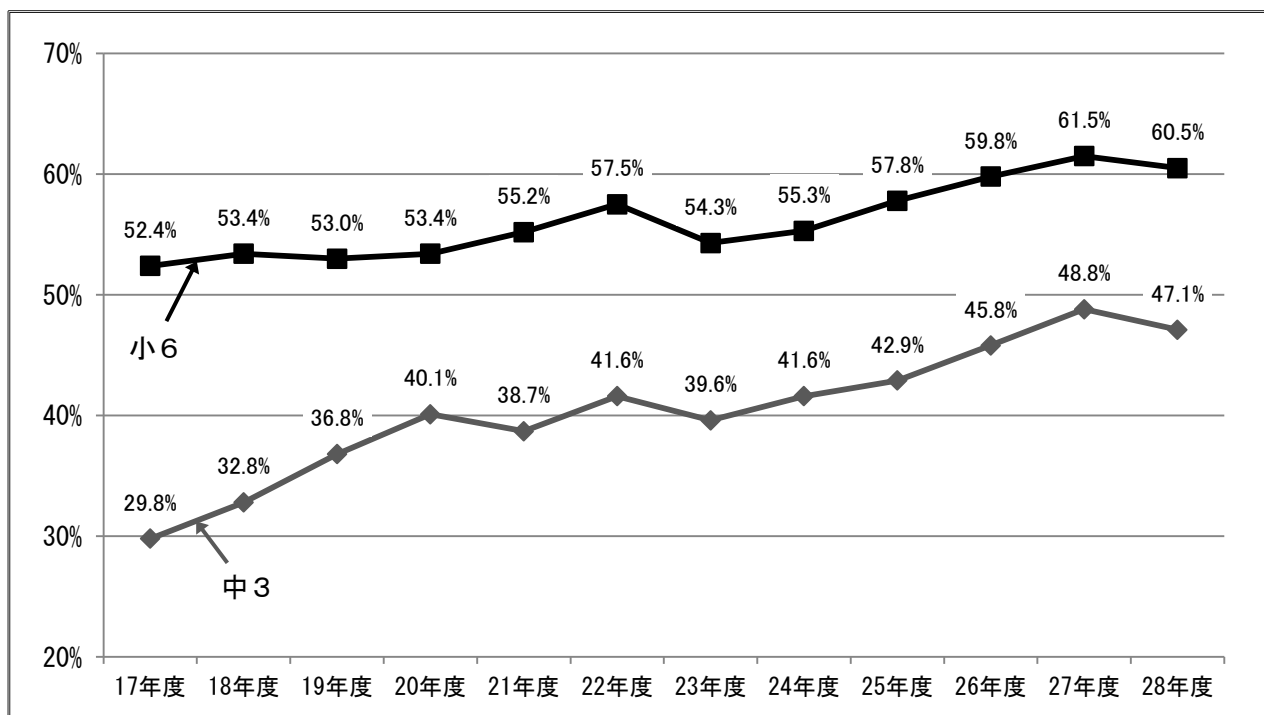
「1 時間最低 1 回以上、自分の意見を发表或し、先生の質問に答えたりしている」と回答している児童・生徒の割合を比較すると、どの学年においても墨田区は全国よりも低い状況にある。

その一方、「1 時間最低 1 回以上」と回答した、墨田区と全国との差について、平成 2 6 年度と平成 2 8 年度を比較すると、いずれの学年においても全国との差が縮まっている。

3 児童・生徒の学習習慣

意識調査の質問項目「いつも、こつこつと学習していますか。」

(肯定的な回答をしている割合) (単位：%)



「いつも、こつこつと学習していますか。」という質問に対して、肯定的な回答をしている、小学校第6学年及び中学校第3学年の平成17年度からの推移を表したものが、上のグラフである。

このグラフからは、小・中学校ともに墨田区の児童・生徒が「こつこつと学習に取り組んできている」傾向が読み取れ、特に中学校においては、この10年間で15ポイント程度改善している。

4 児童・生徒の家庭学習の状況

(1) 意識調査の質問項目「家で、週に何日くらい勉強をしますか。」

(単位：%)

		ほぼ毎日	4～5日	2～3日	1日くらい	ほとんどしない	その他	4日以上
小6	墨田区	51.4	15.4	17.3		15.2	0.7	66.8
	全国	63.4	15.0	11.6		9.4	0.6	78.4
中3	墨田区	26.3	21.1	33.0		19.4	0.2	47.4
	全国	45.6	19.7	19.8		14.3	0.7	65.3

■ 「家で、週に4日以上勉強している」と回答した、墨田区と全国との差の経年比較

(単位：%)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
小6	－ 10.2ポイント	－ 13.1ポイント	－ 11.6ポイント
中3	－ 17.8ポイント	－ 6.8ポイント	－ 17.9ポイント

(2) 意識調査の質問項目「学校の授業以外に、平日は、1日にどれくらい勉強をしますか（塾等も含む）。」

(単位：％)

		全くしない	30分くらい	1時間くらい	2時間くらい	3時間くらい	4時間以上	1時間以上
小 6	墨田区	12.3	21.3	29.8	15.9	8.7	10.8	65.2
	全国	8.1	20.3	37.3	18.9	7.3	7.1	70.6
中 3	墨田区	11.7	15.9	28.1	29.7	11.5	2.2	71.5
	全国	9.0	13.0	23.5	31.6	16.4	5.8	77.3

■ 「学校の授業以外に、平日に1時間以上勉強している」と回答した、墨田区と全国との差の経年比較

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
小6	－ 7.4 ポイント	－ 4.5 ポイント	－ 5.4 ポイント
中3	－ 11.6 ポイント	－ 5.4 ポイント	－ 5.8 ポイント

(3) 意識調査の質問項目

「土日や祭日など学校の休みの日は、1日にどれくらい勉強をしますか（塾等も含む）。」

(単位：％)

		全くしない	30分くらい	1時間くらい	2～3時間	4～5時間	6時間以上	1時間以上
小 6	墨田区	25.4	29.4	20.6	10.4	5.8	7.1	43.9
	全国	16.2	29.3	29.4	15.1	4.3	4.6	53.4
中 3	墨田区	22.4	20.8	24.9	25.5	4.9	1.1	56.4
	全国	15.4	15.2	23.0	30.5	10.6	4.3	68.4

■ 「土日や祭日など学校の休みの日に、1日1時間以上勉強している」と回答した、墨田区と全国との差の経年比較

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
小6	－ 8.4 ポイント	－ 8.1 ポイント	－ 9.5 ポイント
中3	－ 18.7 ポイント	－ 10.9 ポイント	－ 12.0 ポイント

小学校第6学年及び中学校第3学年の家庭学習の状況に関してまとめたものが、(1)～(3)の表である。家庭学習の日数や時間については、全ての意識調査の項目において、墨田区は全国よりも低い割合である。

また、墨田区と全国との差について、平成26年度から平成28年度を比較すると、小学校では全項目について各年度とも全国平均よりやや低い傾向で推移している。

中学校においても、全項目について各年度とも全国平均よりやや低い傾向で推移しているが、徐々に全国との差が縮小してきている。

第4 調査結果を受けての取組

1 調査結果の公表

(1) 教育委員会の対応

区全体の傾向を示すため、「学年別、教科別、観点別の調査結果」及び「分析結果」を、区教育委員会ホームページで公表する。

(2) 学校の対応

ア 学校のホームページ等による「調査結果」及び「9月以降の授業改善プラン」の公表

自校の学年別、教科別、観点別の調査結果とともに、調査結果の分析、9月以降の授業改善プランの全体計画（学力向上及び授業改善の方策）を、学校のホームページや学校だより等で公表する。

イ 児童・生徒及び保護者に対する「個人票」の返却

児童・生徒及び保護者に対して、保護者会や三者面談等の機会において、今後の課題や取り組むべきことを直接説明しながら、個人票を返却する。

2 学力向上を図るための主な施策

(1) 「墨田区教育委員会のメッセージ」の作成【新規】

本年4月に、全ての小・中学校の教員に対して、「児童・生徒の学習状況を把握し、分からなかったりできなかったりする内容を、分かる・できるようにすること」の重要性をまとめた「墨田区教育委員会のメッセージ」を配布した。

(2) 「すみだ学力向上推進会議」の開催【見直し】

学識経験者、幼稚園や小・中学校の代表、区教育研究会の代表、小・中学校のPTA代表によって構成された「すみだ学力向上推進会議」を開催し、調査結果及び調査分析等から明らかとなった本区の児童・生徒の実態と課題に応じた取組について協議を行っている。

今年度は、課題分析等の報告書の形式を工夫する。

(3) 「調査分析分科会」による調査結果の分析・具体的活用【拡充】

小・中学校の教員の代表によって構成された「調査分析分科会」において、区全体の調査結果を詳細に分析し、指導方法の工夫改善の提言を行う。

本年度から、小・中学校の教科別に「分科会」を代表する教員が公開授業（計9回）を10～11月に、実施する。

(4) 教材コンテンツの整備【拡充】

I C Tを活用し、指導案、ワークシート、教材等を整理して収納し、各学校が活用できるよう整備する。

(5) 授業改善ヒアリングの実施【見直し】

すみだ教育研究所及び指導室は、年2回、全ての小・中学校に対して、授業改善ヒアリングを実施し、9月以降に具体的な学力向上の取組を推進するため、指導・助言を行う。

本年度は、教員が作成する「授業改善計画」がより具体的になるよう、様式を変更した。

(6) 理科教育指導員の配置【見直し】

平成26年度から非常勤の理科教育指導員を配置し、小学校の巡回指導、「理科教育ニュース」の発行等を行い、効果的な理科の指導方法の普及を図っている。

本年度、中学校に対しても、よりよい授業のための指導・助言を行う。

(7) 学習意欲の向上の研究【見直し】

平成27年度から、区内の小・中学校各1校を指定し、児童・生徒の学習意欲の向上を目的とした研究を、東京未来大学と行っている。

本年度は、中和小学校・桜堤中学校で、授業展開、生徒のモチベーションを高める研究を行い、平成29年度からは研究成果を全ての小・中学校で活用できるようにする。

(8) 学校における放課後補習等の支援【見直し】

放課後補習や授業を行う際の地域人材を登録し、各学校へ派遣するなどの支援を行っている。

今年度から「放課後学習（放課後すみだ塾、放課後学習クラブ）支援（事業）」と「授業改善の取組を支援するための補助金」を統合し「学力向上支援（事業）」を創設し、各校が自校の課題に柔軟に対応できるよう、見直しを行った。

(9) 家庭学習の支援

ア 「すみだチャレンジ教室」の実施【拡充】

学力に課題のある学校や児童・生徒を対象に、休日・長期休業中に少人数指導を行う。

本年度は、1コース増加し、全9コースとした。

イ 保護者対象の「学習状況調査結果等報告会」及び「学習意欲向上講座」の開催【拡充】

各小・中学校のPTA代表を対象として、区学習状況調査の分析結果とともに、効果的な家庭学習のあり方を取り上げた報告会を実施する。

本年度からは新たに、東京未来大学の教授等を講師として、家庭における学習意欲の向上に関する講座を年3回開催する。

ウ 「中学校すたーとブック（仮称）」の検討【新規】

今年度は、小学6年生の保護者を対象に、中学校入学のための準備をまとめた「中学校すたーとブック（仮称）」を検討し、平成29年度中の発行を目指す。

21世紀型スキル研修について

2016.9.1

1 「21世紀型スキル」とは何か？

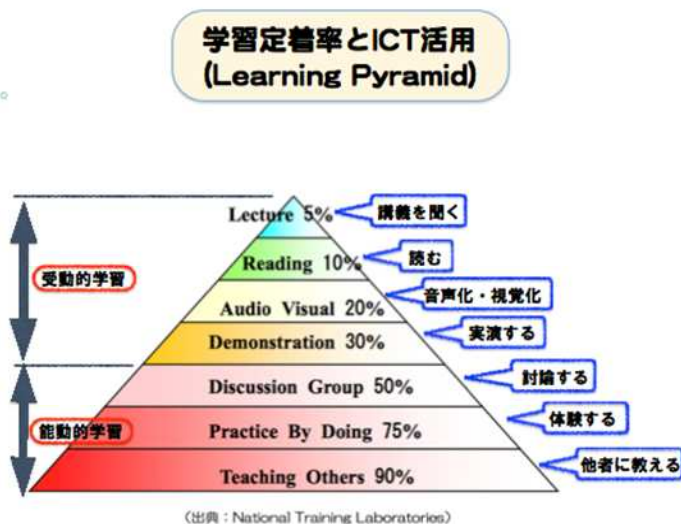
21世紀の国際社会で必要な能力のこと。「問題解決能力」「論理的思考力」「コミュニケーション力」「コラボレーション能力」「ICT活用能力」など、子どもたちが身につけるべき能力を規定したもの。

2 「21世紀型スキル研修」とは何か？

「問題解決能力」「論理的思考力」「コミュニケーション力」「コラボレーション能力」「ICT活用能力」などの育成に特化した研修である。今までこのようなものをトータルとして行う教員研修はあまり実施されていない。

3 なぜ「21世紀型スキル研修」が必要なのか？

次期の学習指導要領の改訂では、「アクティブラーニング」の導入が検討されている。アクティブラーニングは、もともと大学の授業で活用されている授業スタイルであるが、それを小中高校でも実施しようということである。中教審ではアクティブラーニングを「課題の発見と解決に向けて主体的・能動的に学ぶ学習」と規定しており、アクティブラーニングを通して習得させようとする能力は、「21世紀型スキル」で規定している内容を包括するものである。そこで本区では、「21世紀型スキル」研修を次期の学習指導要領の改訂を見据えた研修として位置づけ昨年度から実施している。（この研修は、荒川区や埼玉県ではすでに実施されている。）



「アクティブラーニングや21世紀型スキルについて議論される時に参考にされるものとして、「学習定着率」がある。これは、アメリカの研究所が、学習した内容の定着率が6カ月後に学習形態により、どの位の差が出るかという研究結果である。ただ「講義を聴く」だけでは10%であった学習の定着率が、「他者に教える」ことで90%にまで向上したという結果である。」



＜研修風景＞

4 研修を受講した教員の感想

- ・授業改善に役立つ内容である。
- ・児童主体の授業について改めて考えさせられた。
- ・評価のポイントを詳しく学ぶことができた。
- ・教科に対する考え方を改めて見つめ直すきっかけになった。
- ・普段行っている授業に、21世紀型スキルにつながる点があることに気づけたことが嬉しかった
- ・子どもたちが社会に出たときに必要なことをこれから身につけさせなければならないことが分かった。

平成28年度ICT活用研修実績

	研修名	対象者	H28年度	
			回数	受講実績
1	ICTマネジメント研修 (管理職のための戦略的ICT研修プログラム) 対象:校長、副校長、ICTリーダー、主幹教諭	校長・副校長	1回目	28
		校長・副校長	2回目	33
		ICTリーダー	1回目	32
		主幹教諭	1回目	32
		主幹教諭	2回目	32
			(計)	129
2	21世紀型スキル研修 対象:校長、副校長、ICTリーダー、主幹教諭等	校長・副校長	1	17
		ICTリーダー等	1	34
			(計)	51
3	ICT活用推進連絡会 (横のつながり、情報共有) 対象:ICTリーダー	ICTリーダー	1回目	35
			2回目	
			(計)	35
4	情報セキュリティ・情報モラル研修 対象:新規採用教員・転入者	新規採用者 転入者	1回目	23
			2回目	21
			3回目	36
			4回目	29
			(計)	109
5	CMS操作研修(承認者向け) ・アクセシビリティを学ぶ	校長 副校長	1	10
			(計)	10
6	CMS操作研修(作成者向け) (基本操作及び効果的な作成を学ぶ) 対象:HP作成希望者	HP作成者 (希望者)	1回目	7
			2回目	10
			3回目	
			4回目	
			(計)	17
7	ICT夏季研修会(～平成27年度) (タブレット活用、プレゼンテーション、電子黒板活用、ワード・エクセル、小中学校各3日、全6日) 対象:希望者	中学校教員 (希望者) 各20名、計60名		
		小学校教員 (希望者) 各20名、計60名		
7B	ICT夏季研修会(平成28年度～) ①授業でのICT活用 ②WORD, EXCEL研修 ③プレゼンテーション実践研修	希望者	1	19
		希望者	1	23
		希望者	2	18
		希望者 各回20名	(計)	60
8	ICT活用相談会(H24年度のみ実施) 内容は各自のテーマで、事前申し込み不要、希望者が任意に参加	希望する教員		
9	ICT活用(タブレット活用、電子黒板・word,excel・実物投影機)研修 対象:希望者	教員(希望者)	①iPad,Keynote活用法	4
			②Word,Excel活用法	2
			③iPad,iMovie活用法	12
			④PowerPoint活用法	
			⑤iPad,Keynote活用法	
			⑥Word,Excel活用法	
			(計)	18
10	校務支援システム研修	希望する学校 15校×15名		
11	学校システム概要説明会 (新規・転入者必ず受講、システムの概要説明)	新規採用者	1回目	42
		転入教員	2回目	62
			3回目	14
			(計)	118
12	学校システム操作研修会	新規採用者 転入教員	1回目	12
			2回目	13
			3回目	10
			4回目	7
			5回目	15
			(計)	57